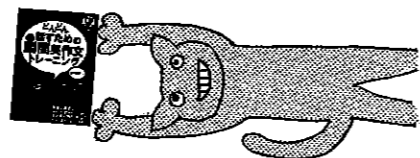




『どんどん話すための瞬間英作文トレーニング』がついに50万部を突破しました。おかげさまで、たくさんの学習者に支持され、今では語学書棚では欠かすことのできない重要アイテムです。しかし、発売当初は、会話のトレーニングなのに「英作文って地味だよ」と言われたり「何で売れてるんですかね」と聞かれたり、あまり内容に関して理解されないことがよくありました。いまだに聞かれます。そこで瞬間英作文をより理解していただくために、どんなトレーニングをするのか？どんな力がつくのか？なぜこんなにたくさんの方に支持されるのか？など、森沢先生にお聞きしました。



瞬間英作文とはどのようなトレーニングを行うのでしょうか？



まず、自分が知っている範囲内の、百も承知の文型を使って、口頭で単純な短い英作文を試みる。そこで、できたかできなかったという答え合わせだけじゃなくて、そこから英文を口に落着けていく、という作業を繰り返すだけのトレーニングです。これを繰り返すと、話すために必要な英作文回路ができます。まだこの回路ができていない方だと、例えば、When節で「彼に再会した時、彼女はとても幸せだった。」"She was very happy, when she met him again." 答えを見た時に、そうか初対面ではなく、2回目以上だからmetではなくsawが一般的なんだと分かる。従来の学習でしたら、そこを直して、満足して次に行きます。でも、瞬間英作文ではここからが大切で、これを口に落着ける。つまり、ノーマルスピードで普通に喋っているようにしていきます。話すのに必要な回路が無いと、こんな感じになりがちです。(途切れ途切れ) "She ... was ... very, happy, ... when she ... saw ... him ... again." これだけ

なかなか回路はできません。そこで最初は必要なら見ながら音読する。"She was very happy, when she saw him again." "She was very happy, when she saw him again." それで口に落着いたら目を上げる。それからあと2.3回ノーマルに話す口言いで言って次へ行きます。口に落着ける作業、そして必要だったら音読あるというのがすごく大切です。それをやらないと全然進歩しません。



瞬間英作文トレーニングを行うとどのような力がつくのでしょうか？



瞬間的に言ったための回路ができて、文型を実際に操作する力がつきます。考えずに反射

1958年神戸生まれ。9歳から30歳まで横浜に暮らす。青山学院大学フランス文学科中退。大学入学後、独自のメソッドで、日本を出ることなく英語を覚える。予備校講師などを経て、1989~1992年アイルランドのダブリンで旅行業に従事。TOEICスコアは985点。現在千葉県浦安市で学習法指導を主眼とする。六ツ野英語教室を主宰。HPアドレス <http://homepage3.nifty.com/mutuno/> 主な著書:『英語上達完全マップ』『どんどん話すための瞬間英作文トレーニング』『みるみる英語力がアップする音読バックトレーニング』(ベレ出版)他。



的に文型を使って話せるようになります。また、さらに外国語の力は、すべて有機的につながっている。これができるようになると、リスニングも、構文の糸をかけるような感じで、より具体的に聞けるようになる。それから読みも速くなるなど、いろんなことにつながります。これは僕自身も体験したし、生徒さんもよくおっしゃることですね。



なぜたくさんの方に支持されているのでしょうか？先生のお考えを教えてください。



これはねえ、類書は昔からあったのね。具体的に名前を挙げると、一番優れた本は市橋敬三さんの一連のご著書です。『中学英語で言いたいことが24時間話せる』(南雲堂)や『話すための英文法』(石研社)ですね。教室でははじめ市橋先生の本をテキストとして使っていたんですよ。ただ、初級者向けのものから表現を増やすためのテキストになっているのです。だから、まだ力が無い人がやると、表現を言えなくなる負担が大きく、トレーニングの効果が薄れてしまうんですよ。そこで初心者から使えるようにオリジナルで創り出したんですよ。『市橋』ってもんだってんですよ。当時は、



へえ、そうだったんですか。



そうですね。まったく負荷がない、それが従来のものと違う点です。また、昔からあるトレーニングなのに、どうも浸透しなかったのを考えると、『瞬間英作文』というネーミングが良かったんでしょうね。交かきそうな気がすると言われます。それから、妹が描いているキャラクターですよ。ちょっとめげそうになった時に、この猫がなんか無邪気でね。癒されるって。僕の友人なんか「妹の力90%だよ」と言ってますよ(笑) あと音声にポーズをつけた点、これは糸引さんが熱心に奮めてくれたんですよ。日本語があって、適当な長さのポーズがあって、英文が出るってね。これも無かったら、こんなにはヒットしなかったと思うんですよ。



僕は、先生がご自身でも、教室でもずっとやってきた思いが、説得力を持って本に現れているんじゃないかと思います。先生ご自身の体験を教えてくださいませんか？



大学に一浪して入った20歳から、学校受験英語の知識と基礎に実践英語の習得を目指して勉強を始めました。最初の2年は迷走でしたが、22歳から音読を中心に、ポキッポキッ多読をしていく力がついてきて、リスニング力もつきました。当時のTOEFL PBT



この面に つきます。

ベレベレ通信 2016年9月号

〒162-0832 東京都新宿区西新宿1-2-1
ベレベレ通信株式会社出版
Tel 03-5225-4790 Fax 03-5225-4795

ベレベレ通信のバックナンバーは、ベレベレ通信のホームページからダウンロードできます。

木村洋介先生



祝☆50万部突破!

『どんどん話すための瞬間英作文トレーニング』はこんな本です。

本沢先生インタビュー

イギリスをテーマに旅する英語

小島 智 ・ 本体 1800円 ・ 四六並製

旅行ガイドにはない旅の楽しみ方。ロンドンの移民の街を歩く、ロンドンからちょっと足を伸ばして近くの都市へ現地のお祭り体験など、イギリスの飾らない空気を伝える文章と一緒に現地のリアルな英語が学べる一冊。著者はビートルズをきっかけにイギリスに興味を持つようになった。初めての一人旅もこのイギリス。その後、プライベートと仕事で何度も訪れて学んだ英語は、くたくたにイギリスの文化、イギリスらしいユークな表現ばかり。それらを本書で紹介していきます。今すぐ行けなくても旅の気分を味わいながら、生のイギリス英語を知ることができます。

博物館の見方・楽しみ方

生物・鉱物・考古学を学ぶ

矢野 暉一ほか ・ 本体 3000円 ・ A5並製

博物館の展示の裏側を知れば、見方が変わり、もっと楽しめる！植物や動物、昆虫、菌類、古生物、鉱物、隕石などの分野の専門家が、博物館の展示の背景を徹底的に解説します。分類のしかた、進化の歴史、生きものの生態など、展示から何が読みとれるのか、イキから説明！また、標本や複製、レプリカなどのつくり方から展示の工夫まで、ふだんは見られない博物館の裏側も紹介します。地球や生物について理解を深めたい方に最適な一冊。

お知らせ

第23回
東京国際ブックフェアに
出展します

日程：2016年9月23日(金)～25日(日)

10:00～18:00

会場：東京ビッグサイト

ベレ出版のブース番号が **4-25** に決定しました。

皆様のお越しをお待ちしております。

台風・集中豪雨・竜巻etc...

気象学の基礎から最先端の研究
までをわかりやすく解説!

『天気と気象についてわかっていることはいないこと』

筆保弘徳・芳村圭 他：共著 1700円(本体)

ベレ出版

BE POP!!

「風の街」シカゴではいい風が吹いていたようです。

何のこたかという、12年ぶりにシカゴで開催された「ブックエキスポ・アメリカ(BEA)」に行かれた方が、その会場で感じた「風」のことです。「文化通信6月27日号」に、ペーパー・ライト・ブックス代表の大島英美さんの寄稿が掲載されていました。今年の5月に開催された北米最大の出版業界イベントでは、確かにいい風が吹いていたという事です。BEAに先だって2015年の出版・書店業界の動向を表す数字が発表されていました。系の本の売上げが前年比2.8%アップと2年連続で前年を上回り(コストコ、ウォルマートなどの量販店での売上げは下がったものの、書店チェーン、独立系書店などの売上げは逆に5.4%増)、前年よりも売上げを13%落とした電子書籍に対して健闘していたという事でした。加えて、独立系書店の数が増加しているという事実もあり、そのあたりも「いい風」の源の一つではないかと大島さんは述べられています。BEA会期後半から始まる本のファンのための催しは、積極的な情報交換の場になるなど、活気に満ちたものであったようです。

さてここ日本でも「東京国際ブックフェア(TIBF)」が開催されます。第23回を迎える今回は、例年7月におこなわれていたものを、9月の下旬にずらして開催されることになりました。これは、メインの客層を、一般読者にシフトしていくための試みの一つと聞いています。我がベレ出版も何年かぶりに、小さなものではありますが、単独ブースを出させていただけます。そして、ささやかではありますが、一般読者向けに書籍の販売もいたします。ここはいつも、内容はいいのに本屋さんでは売れなかった...という本が元気に売れていきます。原因はわかりませんが、ブックフェアで、なぜか本屋さんでは目にとまらなかったような本に、パチッと出会うという事なので、ベレ出版はまだまだ一般の人々に認知されていません(書店の方々にもまだまだ...)。それだけに一人でも多くの人に私たちの本に出会ってほしいと思うのです。業界の景気についてはよくわかりませんが、今年の有明、東京ビッグサイトにはどんな風が吹くのでしょうか。ベレ帽をかぶってぜひ見物します。

<バンドラ>

ぶかぶかのベレ帽



をはじめ受けたのが、27ぐらいの時でしたが、620点ぐらいだったんですよ(満点677点)。TOEIC換算で、940、950点。その2年前にこの瞬間英作文を始めたんだけど、TOEFLスコアはもう同じぐらいだったと思います。TIMEやNEWS WEEKを、買ったその日のうちに読めましたし、リスニングもきれいな英語ならわかるので。ただ英語を話す力が全然なかった。単純なことも言えない。「どれぐらい日本にいらしてやるんですか?」なんて言おうとすると「How much〜」とかね(笑)「How much〜」は使えないな。それで「How long〜」次に「do you」といそうになって其間があるから「have you」それから「live」って言いそうになって、現在完了だから過去分詞だ、全部あてはめて考えなきゃいけない。その本たらくから、このトレーニングを始めたんですよ。退屈そうだけどしょうがないとやってみた。そしたら、ものすごい効果があって、半年で中学英語は自在に使えるようになった。数少ないブレイクスルーでしたよ。



シリーズ点、それぞれ違いと、どんな順番でやるのが良いのか教えてください。



まず、青い本『どんどん〜』は基本編で、エントリの本です。各ページ、同じ文型が並びます。例えば「I〜不定詞の文型が並び、これだと答えの予想がついてしまいますよね。そこで、一歩進んだトレーニングとして、緑の『スラスラ〜』があります。同じ中学英語の英文だけど、不定詞の後に受け身が来て、受け身の後に現在完了が来るとか、文型の予想がつかないように、シャッフルされた英文が並びます。順番は『どんどん』をやった後に『スラスラ』をやるのが良い。赤い『ポンポン』は、パターンプラクティスという方法です。例えば「私は英語を学びたい」「I want to study English.」を「French」に変える。「I want to study French.」主語を「She」に変える。三単現のSをつけて「She wants to study French.」ってね。『どんどん』とか『スラスラ』だと、日本語に引っ張られてしまうタイプの生徒さんには、たいていすね。そういう方は『ポンポン』からやると良いです。『どんどん』『スラスラ』で問題なければ使わなくてもいい。それから『おかわり』の2冊は、またにおかわりですね。例えばこの上巻の3冊、もしくは『どんどん』と『スラスラ』の2冊をやれば必ずそこで回路ができるかという、むしろ完璧な回路はできていないと終わることが多いです。何度も繰り返していると言語がしやうんで、だから『おかわり』が必要です。オリジナルの後はおかわり、もしくは逆からやってもOKです。



教えていた教材を本にしよと思われたきっかけは何ですか?



そのつどコピーしたり、プリントアウトしたりするのが面倒くさかったんでね。本にしよえば「これ買って」って言えば良かったので。でも縛りさえも僕もそんなに売れるとは思っていません。地味な本だし、まさかこんなベストセラーになるとはね。



先生の1冊目の著作『英語上達完全マップ』はどんなものかお聞きしたいと思います。



自分の英語学習の体験に基づいて書いたものです。自分が学習している時、情報を集めるのにすごく苦しかったです。達人の方の学習法を、心算と哲学ばかりで具体的な手順が書いてなかったり、何をどういう手順でやれば良いのかわかる地図みたいなものがなかった。そこで、こういうものを世に出したいとずっと思っていました。僕の計画はサイトに書いて、かなりのアクセス数を取って読者力を得てから、それを武器に出版社さんに持っていくことでした。構想は20年ぐらいありましたが、書き上げるのはあつという間で、2003年の暮れぐらいに書き始めて2004年の4月にできました。(2005年10月出版)



この本で基礎力をつけるトレーニングとして載っているのが『音読パッケージ』と『瞬間英作文』ですね。『音読パッケージ』はどんなものでしょうか?



『音読パッケージ』はね、これも目新しいものは全くなくて、従来からある音声トレーニングです。知っている範囲内の英語を、発音器官を通じて耳から入れて口から出す。これは外国語を習得する上では生命線です。英語が音声的に言語として処理できるようになります。



「音読パッケージ」という名前は先生がつけられたんですよ。



そうですね。これも名前があつた方がいいでしょう。リテンション(リピート)、シャドーイング、テキストを見ながらの音読、こうした音読系トレーニングを同じテキストでやるようにパッケージして『音読パッケージ』ってね。



お忙しい中、ありがとうございます。最後に書店の方々にメッセージをお預りします。



現場で本を一般の読者に届けてくださるのは、書店の方々ですからね。いつも感謝感謝です。1冊でも多く売っていただければ嬉しく思います(笑)

